

労働力需給の推計

- 労働力需給モデル(2004年版)による将来推計 -

まえがき

将来の労働力需給の推計については、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2002年1月)を前提とした労働力供給推計「労働力人口の推移と見通し」(2002年7月)が厚生労働省職業安定局により行われているが、その後、就業形態の多様化、少子高齢化の進展等により、労働市場の需要面・供給面のいずれにも変化がみられる。こうした状況を反映しつつ、2030年までを推計期間とする労働力需給モデルの構築及び将来推計を行った。

この推計結果は、2004年から2005年にかけて厚生労働省で開催された雇用政策研究会において、今後の雇用政策の方向のあり方を検討するにあたって、経済構造及び労働力需要・供給構造の変化に関する分析の際の基礎資料となった。

なお、本研究は、厚生労働省職業安定局雇用政策課からの要請により実施したものである。

2005年8月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 小野 旭

目 次

まえがき.....	
本論.....	1
第1章 研究の目的.....	1
第2章 研究結果の概要.....	1
(1) 労働力需給推計方法の概要	
(2) 労働力需給推計結果の概要	
第3章 労働力需給推計方法について.....	8
第1節 推計に用いたモデル及びその推定について.....	8
1 モデルの概要.....	8
(1) 基本的考え方	
2 労働力供給ブロックの方程式.....	10
(1) 労働力供給ブロックにおける方程式の基本的考え方	
(2) 労働力供給ブロックにおける方程式の推定結果	
(3) 労働力供給ブロックにおける方程式の説明変数設定の考え方と使用データ	
3 労働力需要ブロックの方程式.....	17
(1) 労働力需要ブロックにおける方程式の基本的考え方	
(2) 労働力需要ブロックにおける方程式の推定結果	
(3) 労働力需要ブロックにおける方程式の説明変数設定の考え方と使用データ	
4 需給調整ブロックの関数.....	27
(1) 需給調整ブロックにおける関数の基本的考え方	
(2) 推定結果	
第2節 将来推計の際の設定について.....	31
第4章 今後に向けて.....	36

付論 追加的推計	37
1 最大推計.....	38
(1) 推計方法とその考え方	
(2) 推計結果	
2 単純延長による推計.....	41
(1) 推計方法とその考え方	
(2) 推計結果	
3 都道府県別の推計.....	50
(1) 推計方法とその考え方	
(2) 推計結果	
参考文献	60
付属資料	

労働力需給推計研究会 名簿 (2005年8月1日現在)

(委員)

笹島 芳雄	明治学院大学経済学部教授
三谷 直紀	神戸大学大学院経済学研究科教授
木村 文勝	三菱総合研究所 産業・市場戦略研究本部 労働市場研究チーム 研究部長
荻野 百合子	三菱総合研究所 産業・市場戦略研究本部 労働市場研究チーム 専門研究員

(オブザーバー)

勝田 智明	厚生労働省職業安定局雇用政策課 課長
藤井 宏一	厚生労働省政策統括官付労働政策担当参事官室 労働経済調査官
中井 雅之	厚生労働省職業安定局雇用政策課 課長補佐
安達 佳弘	厚生労働省職業安定局雇用政策課 係長

(事務局)

本川 明	労働政策研究・研修機構 統括研究員 (前情報解析部長)
秋山 恵一	労働政策研究・研修機構 情報解析課長